

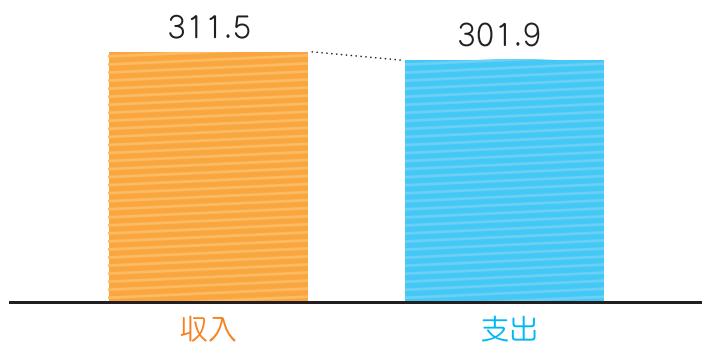
# 平成22年度決算

→ 上下水道局のお財布事情をご紹介します 

## 上 水道事業

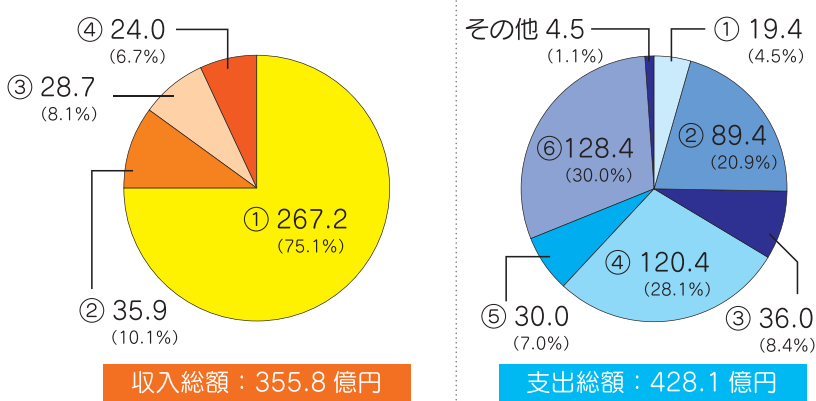
水道事業は、市民生活や都市・産業活動に欠かせない基幹施設として、いつでも安全で良質な水を安定的に供給し、また渇水や災害時にも対応できる強い水道施設の構築を目標に取り組んでまいりました。水需要については人口の増加があるものの、節水型社会構造への変化などから使用水量はほぼ横ばいで推移しております。財政面においては、平成 22 年度 4 月 1 日から水道料金の減額改定を実施し、行財政改革などによる経費削減を推進したことにより、当期純利益が 9.6 億円生じましたが、今後、施設の老朽化に伴う建設改良費が増大することから、一層の経営の効率化を推進してまいります。

経営活動に伴い発生する収入と支出 (税抜き額 / 単位: 億円)



▶▶ 収入 311.5 億円 - 支出 301.9 億円 = 当期純利益 9.6 億円

水道事業における収入総額と支出総額 (税込み額 / 単位: 億円)



- 収入**
- ① 水道料金
  - ② 東京都からの分水負担金や、下水道徴収費繰入金など
  - ③ 災害対策事業に対する補助金など
  - ④ 水道施設の整備・改良のための借入金

- 支出**
- ① 水源から浄水場まで原水を運ぶ費用
  - ② 神奈川県内広域水道企業団からの受水にかかる費用
  - ③ 原水を水道水にするため浄水場でかかる費用
  - ④ 水道水を浄水場からお客さままで配る費用
  - ⑤ メーター検針、料金徴収などの営業に関する費用
  - ⑥ 水道施設の整備・改良のための費用

▶▶ 収入 355.8 億円 - 支出 428.1 億円 = 差引 △72.3 億円

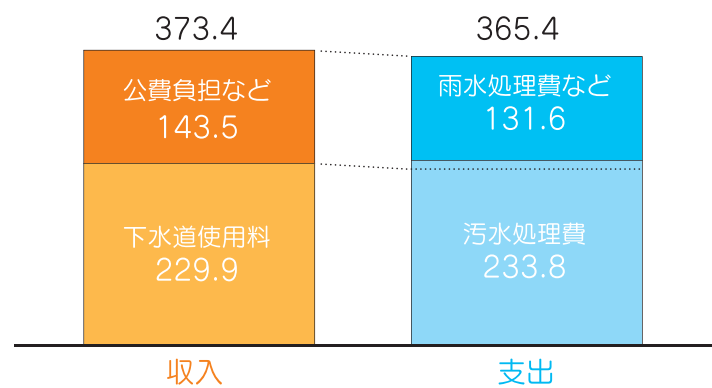
収支不足額については、過年度分損益勘定留保資金等で対応しました。

お問い合わせ 経営管理部 [水道経理] ☎044-200-3106 FAX 044-200-3982 経営管理部 [下水道財務] ☎044-200-2887 FAX 044-200-3982

## 下 下水道事業

下水道事業は、都市基盤施設としての下水道機能の維持向上を図るための維持管理と更新、建設整備を行う一方、事業運営の効率化に努めてきましたが、過去の建設投資の影響により、いまだ企業債残高が高い水準にあるなど、依然として厳しい財政状況となっています。平成 22 年度決算は、これまでの事業運営の効率化などにより、企業会計移行後はじめて当年度純利益を計上することができましたが、今後も引き続き経営の自立に向け、より一層の経営の効率化を推進します。

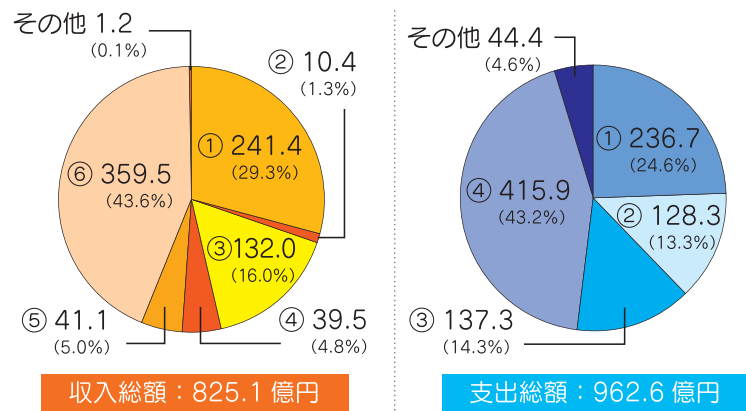
下水処理の費用負担のしくみ (税抜き額 / 単位: 億円)



【雨水公費・汚水私費の原則】

下水道施設などを管理する費用には、使った汚れた水をきれいに浄化する汚水処理費と、ご自宅や道路などに降った雨水をすみやかに排除する雨水処理(浸水対策)費があります。受益者負担の考えから、汚水処理費は下水道使用料(私費)で、雨水の排除は税金(公費)で負担するしくみとなっています。

下水道事業における収入総額と支出総額 (税込み額 / 単位: 億円)



- 収入**
- ① 下水道使用料
  - ② 汚水にかかる一般会計負担金など(福祉施設に対する減免等)
  - ③ 雨水処理等にかかる一般会計負担金など
  - ④ 下水道施設の整備や元金償還にかかる一般会計出資金など
  - ⑤ 下水道施設の整備にかかる国庫補助金
  - ⑥ 下水道施設の整備および企業債の償還にかかる借入金

- 支出**
- ① 汚水処理にかかる費用
  - ② 雨水の排除などにかかる費用
  - ③ 下水道施設の整備・更新のための費用
  - ④ 施設整備などのため借入した企業債の元金償還費用

▶▶ 収入 825.1 億円 - 支出 962.6 億円 = 差引 △137.5 億円

収支不足額については、当年度分損益勘定留保資金等で対応しました。